



dmum 

レジス・グロンヴィル、造形作家



経緯

出自、国籍、宗教、慣習の違いを超え、芸術は人の心を一つにする。
愛が、昨日から今日、明日へ、そして永遠に続くことを願って…

レジス・グロンヴィル



2017年2月1日、モロッコにて

パリ/カサブランカ/アイウン /タルファヤ。私は、プロジェクト [dmum*](#) に携わるセリナ、クレール、キラ、ティリーの4人の仲間たちとともに旅立つことを希望した。アイウンを出発して大西洋沿いのルートをとりながら、西サハラをタクシーで横断する。百キロほど進んだところで行程は終わる。ここから道路はなくなる。砂漠と海の狭間、中心街ははるか南に遠ざかり、眼前にタルファヤの町が現れる。

この町は当時キャップ・ジュビーと呼ばれていた。1927年、サン＝テグジュペリはこの中継飛行場の所長に任命され、ここで18ヶ月間を過ごす。1876年にイギリス人が建てた旧商館が満潮の中にその姿を現す。

この歴史的な地に位置するカザマールホテルに宿泊する。今回のホスト兼アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ美術館創立者のサダト・ムラビラブ氏が、私達を温かく迎えてくれた。街中を散策し、1933年以來(1)放置されたままになっている素晴らしい映画館を訪れた。その夜は、氏の母上宅での、家庭的で昔ながらの夕食に招かれる。世界と人生についての討論は興味深く、機知に富んでいる。翌日、私達のドキュメンタリー企画のために、西サハラに住むベドウィン遊牧民の子孫である二人の聡明なサハラ人と、タルファヤの女性たちに出会うことが出来た。現地では私はこの作家 - 飛行士の姿を思い浮かべる。

おそらく「星の王子様」は、静寂な砂丘の谷間の光の中、砂漠の外れにあるラテコエール社の飛行機が着陸した滑走路でサン＝テグジュペリに会ったのではないだろうか？誰がそれを知ろう。

ここからプロジェクト [dmum*](#) は飛び立つ。

1. タルファヤ映画館は1942年に建てられ、当時、1958年まで駐留していたスペイン軍兵士に息抜きと感動を与える唯一の場所だった。その後1993年まで、サダト・ムラビラブ氏の父上がその所有者だった。



サン＝テグジュペリの 足跡を辿って

結局のところ、地球上にはたった一つの問題しか存在しない。いかにして人類に精神性を取り戻させるか、いかにして精神的関心を呼び起こさせるか。人類は上から滋養を受け、グレゴリオ聖歌のような何かが彼らの下に舞い降りてこなくてはならない。もはや我々は、冷蔵庫や政治、予算書、クロスワードパズルだけに拘って生きていくことはできない。そんな風に進み続けることなど、もうできないのだ。

アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ



dmum[★] — 内面世界 発見の勧め

私達は飛行士のように、故障したエンジンを修理しようとして、砂漠のなかで迷っている。我々の人生とその救済は、この思いがけない修理作業にかかっている。それによって、我々が親しんできたもの、責務や喜び、夢に向かって再び飛び立つことができるからだ。

そして、この故障は私達に救済をもたらす!

日常の活動過多の騒音の中で、おそらく初めて私達が耳をすましたらどうだろうか?

dmum[★]への誘い

dmum[★]とは、『ヒツジの絵を描いて』« dessine-moi un mouton » のフランス語表記の各単語の頭文字を合わせたものである。dmum[★] は、全てが急速なリズムで進む狂気に満ちたこの世界に、ひとときの休止をもたらすことを提案する。そして(dmum[★]「ヒツジの絵を描いて」の)「ヒツジ」、つまり目に見えない空想のシンボルは、私たちに、箱の中を歩き回ってすべての感覚を目覚めさせることを勧める。毎朝、私達の耳元で囁かれる、静かで生真面目に繰り返される小さな声に耳を傾けながらの散策、人はあまりにもしばしば、その声に耳を閉ざしている。そして突然、それは願いではなく、命令となる: 重大な時を迎え、時は差し迫っている。迷っているのは人間、修復が必要なのは人間だ。そして沈黙を拒否するこの小さな声... 故に箱の内側を眺めることを学び、発見し、分かち合い、一息つこうではないか...

dmum[★]とは何か?

dmum[★]は、レジス・グランヴィルが発起人となって数名の人々とともに作り上げた芸術的、教育的、文化的、より広義にはヒューマンスティックで普遍性を持った作品である。それを通し、一つの生きることの意味が、若者や大人たちに提案される。作品はちょうど、パスポート、対話・静謐の空間、「再びの歓喜」と交流の場のようなものである。



木箱の3Dモデリング

箱、タルファヤ・ジュビー岬 —カサマール要塞へ—

レジス・グランヴィル

今日 dmum[★] が本質的なものであるとすれば、それはまさに人類がその人間性を失ったからである。
私達は今でもアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの知恵を必要としている。

dmum[★] を構成するものは何か？

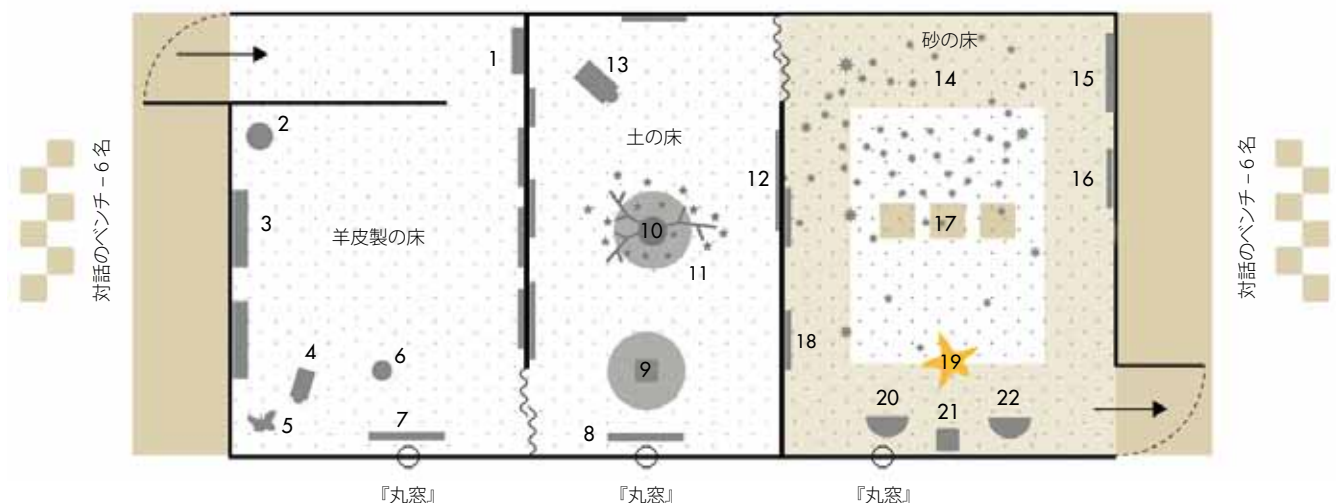
「木箱」は作品の中核をなす。それは閉じていると同時に開かれた空間である：外側から見ると3つの窓、だまし絵の鏡で飾られた『丸窓』があり、そこから木箱の中を見ることはできない：内側からこれらの窓は見えない。幻視状態のなかで、我々は自身と対峙し、現実世界と内面世界を隠喩的に往来するような「外界／内界を行き来する感覚」を容易にする知覚スペースの中に下りていく。こうして自身の想像世界、肉体、感覚とつながり、自らが何者であるかを発見する。

これは、伝統的な建築手法に則って、松と重厚なポプラ(長さ12メートル、幅6メートル、高さ2.6メートル)で作られた巨大な建造物である。出入り口の前で、二つの対話のベンチが、来場者に小休止することを勧める。木箱の中に入る前に、床に使用された素材の感触を味わうために、靴を脱ぐよう促されるだろう。

この木箱は三つの部分に分けられ、それぞれがサン＝テグジュペリの一作品に相当する：精神性に富む人間(「城砦」)、大地(「人間の土地」)、空、夜…(「夜間飛行」)。

それぞれの空間は、サン＝テグジュペリの作品に触発を受けた彫刻、写真、フレスコ画、光や音・匂いを伴う作品群を有する。

最後に、サン＝テグジュペリの甥で名付け子のフランソワ・ダゲイ氏とレジス・グランヴィルの、アゲイ城での -最も本質的な- 出会いの場面が、木箱の外に設置されたモロッコやモーリタニアの砂漠の民達のテント・「カイマ」の中で上映される。



上記：木箱の図 : 1. パラのフロックコート / 2. 小惑星B612のパラ / 3. アカシック本棚 / 4. フォクシー / 5. 小さな蝶 / 6. クニオ (彫刻) / 7. 鏡のモザイク / 8. 視線の行方 / 9. B-612の椅子 / 10. タルファヤの木 / 11. 日の出の井戸 / 12. クニオ (フレスコ画) / 13. ヒツジのシーピー / 14. 星の天井 / 15. オリオン星の思い出 / 16. 街灯 / 17. 椅子とオリエンタル絨毯 / 18. コンスエロ、花嫁は黒い服を着ていた / 19. dmum[★]の星 / 20. 水で満たした容器 / 21. 飛行ヘルメット / 22. タルファヤ・キャップ・ジュビーの砂漠の砂で満たした容器



他にもまだ！

dmum^{*}の見学順路は自由で、全ての知覚を刺激し、各自の中に存在するの小さな声に響きを与えるよう、工夫されている…

『精神性に富んだ男』から私達の旅は始まる。靴を脱いだばかりの足は、柔らかくふわふわした羊の皮でできた床を歩み、『ブルガリアのバラ』を巡って想像される、音が響き匂いの漂う雰囲気の中へ私達を誘う。

小惑星B612のバラ、地球の下で ● バラのプロックコート、刺繍を施したコスチューム ● アカシック(注:「究極の英知」の意)の本棚(1)、木と紙 ● 星の世界、木の上に多層溶融ガラスの彫刻 ● クニオ、そこで生まれた子供、木とガラスの彫刻 ● 小惑星46-610、生まれ故郷の星のイラスト付き地図 ● キツネのフォクシー、金属と木の彫刻 ● 鏡のモザイク ● 音声 - 録音された一冊の本の抜粋音読

中核をなすステップで、本質的に不可欠な内面の休息のときであり、それによって自らの中に存在する普遍的なものに精神を集中させる。B-612の椅子、木製 ● 視線の行方、木の上に多層溶融ガラスの彫刻 ● タルフアヤの44個の星の木、金属 ● クニオ、そこで生まれた子供、フレスコ画 ● ヒツジのシービー、彫刻、木、羊皮とガラス ● 日の出の井戸、金属製の作品とだまし絵 ● 彗星のマフラー、アクセサリ ● 絵画とデッサン

最後に私達がかち合うのは『空、夜...』である。脚についた砂、星の光。最後に？ そしてそれが始まりに過ぎないとしたら？ オリオン星の思い出、彫刻、木の上に多層溶融ガラス ● 街灯、フレスコ画 ● 椅子とオリエンタル絨毯 ● 土から出た蛇、青空、雲と星の下にクニオのシルエット、フレスコ画 ● キャップ ● ジュビー - タルフアヤ砂漠の砂に満たされた容器 ● 海水の満ちた容器 ● 飛行ヘルメット、彫刻 ● 花嫁は黒い服を着ていた、刺繍の施された衣装 ● 写真 ● 音声音読録音 ● バックグランドミュージック、そして『ミント』の香りとの出逢い

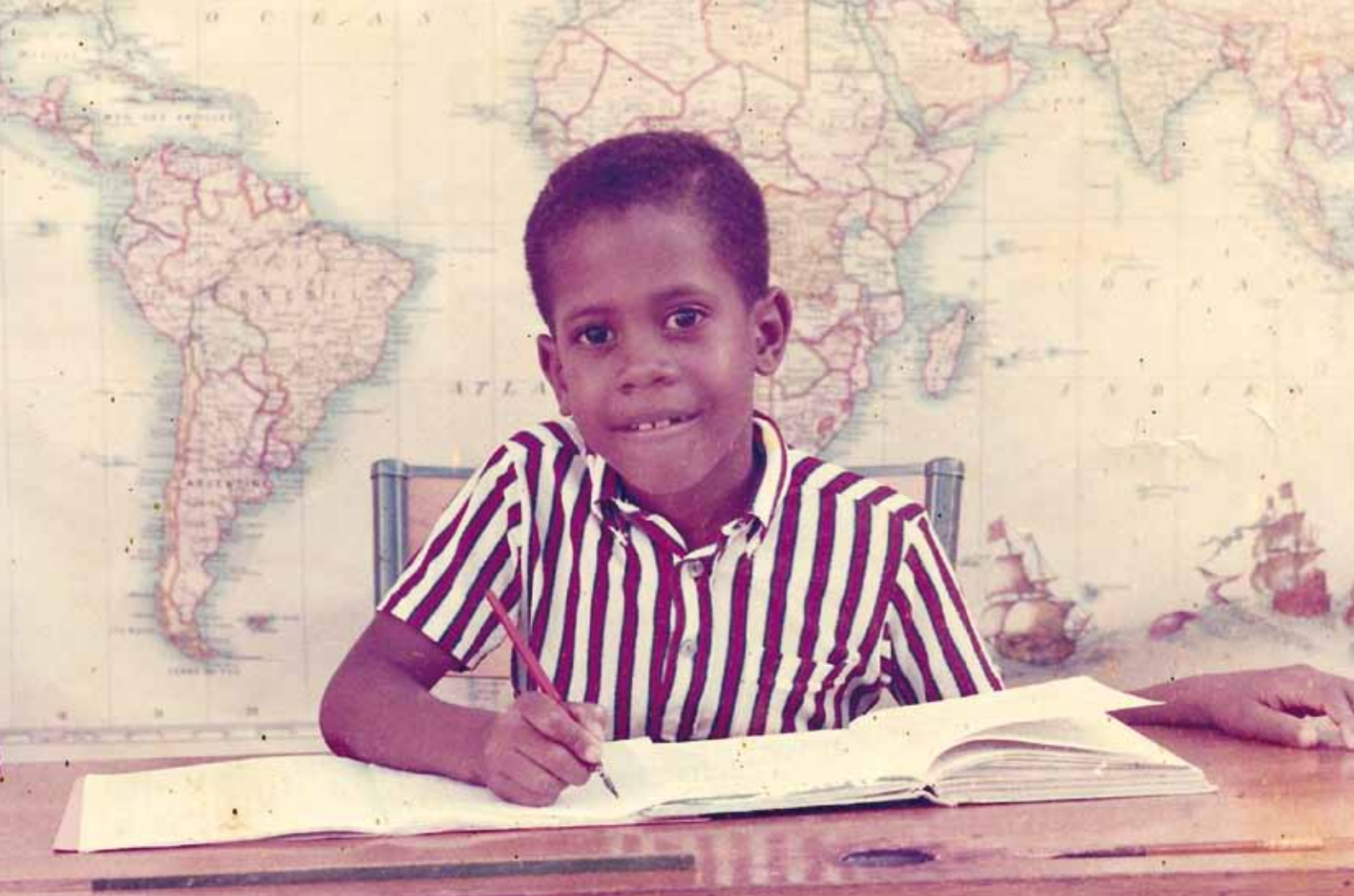
1. インド哲学の秘教的概念によれば、各々の魂は天空、虚空の中にその行程を刻印する。阿迦奢の年代史とはちょうど感光性フィルムのような、一つの宇宙の記録で、万物の生命の記録を保存し、それらを宇宙の図書館に保存する。

クニオ、そこで生まれた子ども、木及びガラスの彫刻





月明かり、アルゼンチン・コルドバ州にて（作者が2003年から2008年まで滞在）
Seiichi Fujioka - 「木箱」の感覚的順路を構成する作品群の下絵デッサン担当



アーティストについて

レジス・グランヴィル、造形作家

レジス・グランヴィルはフランスと海外で生活する。十年間ほど、現代舞踊のプロダンサーであった。

1998年、ヴェネツィアを旅行した際、レジスはムラノ島のガラス工芸作家達の仕事に出会う。そして光を結晶させる素晴らしい素材であるガラス工芸に専念することを決意する。ガラスは、密度が金属と、透明さが空気と、プリズムが水と、そして融解が火と似ており、彼の芸術表現の新しい手法になる。レジスは複数のガラス工芸作家に会い、フランスのサースポリエガラス工房で大学レベルの研修を受講する。さらに、「フュージング」という多層溶融ガラス工芸技術を実践する造形作家のウド・ゼンボクの工房に受け入れられる。二年間、イタリアのコルマルおよびコンボロソでレジスは彼の助手をする。この間、アメリカのシアトルにあるビルチュック・グラス・スクールにも通い、ガラス工芸に関する他のテクニックも習得する。

飛行を愛する熱烈な旅行家で、「星の王子さま」の長年の愛読者として、どこへ行っても、レジス・グランヴィルは、サン＝テグジュペリとの、ある種、精神的かつ倫理的な系列の中に自らを位置付ける。こうして彼は、感覚的かつ実験的な新しいアプローチを提案しつつ、この作家のメッセージに改めて現代的意味を与える **dmum**★を創造する。

『冒険の価値は、それが作る絆、それが提起する問題群、それが引き起こす創造の豊かさにかかっている。』

アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ

dmum[★] の中枢



Celina Berghaus

大学教員・マルチメディア専攻、制作協力者



Nathalie Oger

舞台設計家



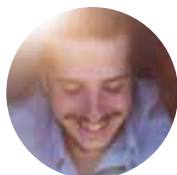
Élan Chardin

在米連絡責任者



Sadat Mrabihrabou

制作協力及びタルファヤでのアドバイザー



Pierre-Alfred Eberhard

ディザイナー／ドキュメンタリービデオ編集担当



Emma Shulman

デザイナー、刺繍家



Seiichi Fujioka

イラストレーター



Régis Granville

dmum[★] 立案 - 監督
広報担当、芸術ディレクター

dmum[★] 企画参加者

Régis Granville : dmum[★] 楽器演奏音楽担当

Quetzal Barrera : 照明、ボイスオーバー

Adib Benabderrahmane : 3Dメディア制作

Jean Burucoa : 俳優、ボイスオーバー

Lorenza Cerretti : イラストレーター

Louis Delaporte : 建具・家具制作

Afshan Heuer : 美術館学者

Thierry Lo-Shung-Line : グラフィックデザイナー

Isabelle Poilprez : ガラス工芸作家

Samuelle Saummier : レイアウトデザイナー

Daniel Vuitenez : ウェブサイト立案者

Kira Vygrivach : 写真家、映像作家

友情のこもった 支援への御礼

フランソワ・ダゲイ氏ならびに同氏の令嬢 Roseline と Isabelle、

Sidney Arthur, Francine Beaudon-Boyer, Eric Bervillé, Francis Blanchon, Marie Bonnefoy, Agnès Bourot, Tita Buruco, Claire Castan, Michel Cavé, Manna Chaiba, Yannick Dabrowski, Gilda Delaporte, Isadora Dornier, Michel Does, Thelma Egerton, Jill Exley, Eva Heinsdorf, Afshan Heuer, Satoshi Hirota, Eiji Kadoguchi, Claudine Kelifa, Myriam Lefraire, Michèle Libis, Tanya López Sierra, Salem Maatoug, Gustavo Macias, Rim Maelainine, Gilbert Maestle, Marina Malkevich, Margarita Milrad と Lito Harari, Lysa Monteiro, Claudine Nika, Janine Oger, Megumi Otsuka, Ayano Oya, Sonia Plumain, Paola Ponce, Hélène Roquin, Denis Spangenberg, Takemi と Rumi Sugai.

お問い合わせ:

dmum^{*}
www.dmum.art
regis@dmum.art
+33 (0) 6 42 59 72 67

Régis Granville
www.rgranville.com (作品をご覧ください)
regis@rgranville.com

編集 : Zoé Monti と Régis Granville
Lelivredart 出版社 - 編集長 : Myriam Lefraire ; 編集者 : Zoé Monti
グラフィックデザイン : Blandine Le Roch
日本語翻訳 : Ayano Oya - Satoshi Hirota - Megumi Otsuka
日本語校正 : Setsuko Maestle

